



て独立を果たしました。当時はちょうど妻が妊娠していた時期で、大変な状況の中、支えてくれた妻には本当に感謝しています。「親兄弟ともぶつかってまで独立したからには、中途半端なことはできない」と強い覚悟で挑みました。

——ゼロの状態からスタートされたのでしょうか。

はい。まずは工具を揃えるところから始め、営業も事務もすべて自分でこなしました。そして、ありがたいことに良いご縁に恵まれ、お付き合いを大切にしながら仕事に努める中で、仕事が広がっていったんです。ただ、独立した最初の1年は順調でしたが、その翌年にコロナ禍で状況が一変しました。

——コロナ禍では世界中で色んな活動がストップして、本当に大きな危機でしたよね。そんな中で、どのような取り組みをされたのでしょうか。



——まずは、謝花代表の歩みから伺います。ご出身はどちらですか？

ここ、沖縄県うるま市の出身です。小学校時代は柔道、中学・高校では野球に打ち込み、スポーツに親しんだ少年時代を過ごしました。

——社会の第一歩はどのようなお仕事に就かれたのでしょうか。

「人の役に立つ仕事がしたい」と考えて、最初に残ったのが介護士の仕事でした。ただ、母が亡くなったことで家族を支えたいという思いが強まり、電気工事業を営んでいた父の手伝いを始めることに。幼いころから父の工具で遊ぶほど電気工事が身近にありましたし、私の兄弟6人のうち、3人が電気工事に携わっています。いわば、電気工事の一家に生まれ育ったわけです。

——まさに血筋ですね。その後、独立を果たされて？

ええ。父や兄からは反対されましたが、自分の手で事業を手掛けたという思いが強く、兄弟とも話し合った末に覚悟を決め

沖縄県うるま市を拠点に活躍する『花丸電気興業』。電気工事や計装工事、電気土木工事を専門とし、確かな仕事ぶり人と人を大事にする姿勢で厚い信頼を築いている電気工事会社だ。本日はタレントの布川敏和氏が同社を訪問。大きな危機も乗り越えて事業を成長させてきた謝花代表にお話を伺った。

覚悟を持って努力を重ね、事業の成長を実現 電気工事業界で厚い信頼を築く経営者

SPECIAL INTERVIEW

ゲスト
インタビュアー

布川 敏和

謝花 良仁

(同) 花丸電気興業
代表



Guest Comment

「新しい分野にも果敢に挑戦し、技術を身につけて前進してきた謝花代表。『経験がなければ学ばない』という姿勢で突き進む姿勢はまさに『根性の塊』という印象を受けました。そうした信念があるからこそ、業界で高い信頼を得ておられるのだろうと納得させられましたよ！」 布川 敏和：談

——それまで自宅を拠点にしていたのですが、「事務所を構えたほうが信用に繋がる」と考え、敢えてそのタイミングで勝負に出しました。しかし、移転後もしばらくは厳しい状況が続き、生活のために自転車操業を余儀なくされました。振り返ると、このころが一番苦しい時期でしたが、前述したように覚悟を持って独立したので、勤めに戻ろうとは思いませんでした。

——強い信念を感じます。その後、状況が好転したのはいつごろでしょうか。

沖縄では手掛けられる業者が少ない計装工事を始めたことが転機となりました。ある時、神奈川の企業の社長さんから「計装の研修を受けてみないか」と声を掛けてもらったんです。そこで単身県外に出て、長期間出張しながら技術を学びました。研修を経て、少しずつ計装工事の仕事が増え、そこから事業が軌道に乗っていききました。

——では、その社長さんは代表にどのような恩師のような存在ですね。

はい、大変お世話になりました。現在、当社では電気工事・計装工事に加え、電気土木工事も手掛けています。電柱の地中埋設を行うインフラ事業で、沖縄では特に需要が高まっています。この分野の工事を進める中で、大型アミューズメント施設の建設に関わる機会も頂きました。

——代表は電気土木工事の分野もあらかじめ学ばれていたのですか。

そうですね。以前からこの分野に挑戦したいという思いがあったので、数年前に重機の免許を取得し、勉強を重ねてきました。

——そうやって先進的な事柄に早くから取り組み、という時に率先して動き、実績を積み重ねてこられたのでしょうか。

——ありがとうございます。新しい種類の仕事を求められれば、その時点での経験値は乏しくても率先して技術を身につけ、しっかりとした仕事を行っていく力は持っているかと自負しています。そうして励む中で、コロナ禍で沈んだ業績をV字回復させることができました。

——お仕事をやる上で、代表が特に大事にされていることは何でしょうか。

やはり人との繋がりで。お客様に喜んでいただける確かな仕事を全うするのは当たり前。その上で、仕事で繋がりができた方々と、人と人としての信頼関係を構築することに注力してきました。

——最後に、今後の展望をお願いします。

今後はさらに事業の幅を広げていきたいと考えています。まずは頼れる右腕にこの『花丸電気興業』を任せ、私は新たに電気土木業の会社を設立する予定です。その先には不動産事業への着手も視野に入れ、将来的には総合建設業のような存在になっていきたい。そうすれば、電気工事・電気土木・不動産開発を一貫して手掛けることができ、沖縄の発展にも貢献できると思います。また、孤児院の子どもたちの引き取り支援もしていきたいですね。これからもお客様に信頼していただける会社を目指し、歩を進めて参ります。

COLUMN

支え合う家族への尊敬の念

▼強い覚悟を持って独立を果たした謝花代表。当初、家族からは独立に反対されていたが、今では互いを尊重し合い、協力しながら支え合う関係を築いている。現在、代表の兄は民間工事を専門に手掛けており、それぞれ異なる分野で活躍。必要に応じて仕事を融通し合い、お互いの強みを活かして補い合うこともあるという。

▼また、代表の父親は80歳を超えた今も現役で、知人のもとで電気工事に携わっている。「危険なので、家族からすればそろそろ引退してほしいという思いもあるのですが、父はやはりこの仕事が好きなようです」と、代表は微笑みながら語る。その言葉には、父親への尊敬と、家族としての温かい思いが滲んでいた。

「これまでの苦労は無駄ではなかった。
今までしてきたこと全てが繋がって
事業が成長していったのです」



(同) 花丸電気興業

代表 謝花 良仁

KEY WORD

結実

— ketsujitsu —

謝花代表は、揺るぎない信念を持ち、事業を推進してきた人物だ。

コロナ禍では事業の存続が危ぶまれる危機に直面したが、

勤めに戻ることは一切考えず、むしろ事務所を構え、不退転の覚悟で前進。

人との繋がりを大切にしながら確かな信頼関係を築き、

計装工事や電気土木工事の技術を身につけ、業績の回復へと繋げていった。

かつて独立に反対していた家族とも、今では認め合う良好な関係を築いている。

「今までしてきたこと全てが繋がり、事業の成長へと結実したと感じます」と代表。

これからも代表は歩みを止めることなく、一歩ずつ確実に未来へと進んでいくだろう。